

保育士養成における相互評価法を活用した工作実践

田中 雅章

Email: m_tanaka@jc-humanitec.ac.jp

ユマニテク短期大学 幼児保育学科

◎Key Words 保育士養成, 工作実践, 相互評価

1. はじめに

保育士養成課程において保育者に必要な幼児教育の専門能力の一つとして「個別的・具体的保育知識・実践力」がある。具体的には「ピアノ技術」、「豊かな表現力」、「絵画造形能力」の技術があげられる。本研究では保育士養成科目の一つである「遊び入門」において「豊かな表現力」、「造形能力」を養成する取り組みを行った。「遊び入門」は3人の教員が分担しており、学生の創造力を豊かにする目的で工作を担当した。

2. 遊び入門における工作実践



図1 段ボール製の筒

実践した工作の課題は図1の様な長さ34cm直径7cmの段ボール製の筒を材料に使い、学生が自由に3時間で作品にするものである。どうしてもアイデアが創造出来ない学生のために筒を樹木の幹に見立て虫の型紙を準備する作品例を準備した。

作品完成後は学生同士で互いに作品を評価する作品発表会と相互に評価を行った。作品発表会を行った理由は工作で制作しても自分の作品のイメージや想い、世界観を紹介することはあまりない。さらに保育現場では子ども達の自由に表現する工作がこどもの創造力を伸ばす。子ども達の作品とテーマと物語の共感できる共感力を身に着けるためである。

3. 作品発表のための視聴覚機器の活用

ICT機器の活用能力は保育士にとって必要な能力のひとつになりつつある。これらの能力は、子どもたちの活動をサポートする際にその威力を発揮するといわれている。ただ、ほとんどの学生はICT機器の活用能力が備わっていない。作品発表会では図2の天井カメラ



図2 天井カメラ

で作品を撮影し、その特徴がよく見えるように2台の大型モニターに拡大表示した。発表する学生

は見やすくなった作品を提示しながら、作品のテーマや世界観、工夫点、留意点などを説明した。視聴する学生は、スマートフォンで作品の評価を行った。翌週に評価結果をまとめた評価シートを発表者へフィードバックした。

4. 実践の成果・まとめ

表1 作品発表会の振り返り

質問項目	積極群 n=28	消極群 n=28
次も作品発表会に参加したいですか	28 100.0%	0 0.0%
参考になる作品があった	27 96.4%	25 89.3%
他人を評価することで得るものがあった	25 89.3%	22 78.6%
他人の作品を公平に評価できた	24 85.7%	21 75.0%
自分の作品は公平に評価された	24 85.7%	22 78.6%
自分の作品を他人に評価してもらって良かった	25 89.3%	15 53.6%
他人に評価をしてもらうことで得るものがあった	26 92.9%	20 71.4%

評価シートを学生にフィードバックした後に今回の取り組みについて14項目のアンケートを実施した。「次も作品発表会に参加したいですか」の質問に対して「はい」と回答した積極群と「いいえ」「どちらでもない」と回答した消極群の2群に分けた。それぞれの「はい」の回答数と比率を比較したのが、表1 作品発表会の振り返りに示す。消極群と積極群とでやや差があった項目の一覧である。特に「自分の作品を他人に評価してもらって良かった」の差が大きかった。

表2 関連の高い質問

質問項目1	質問項目2	相関係数	有意確率
参考になる作品があった	他人を評価することで得るものがあった	0.63	0.024
自分の作品を他人に評価してもらって良かった	他人に評価をしてもらうことで得るものがあった	0.62	0.044

相関関係があり危険率5%以上の項目を表2 関連の高い質問に示す。「参考になる作品があった」と「他人を評価することで得るものがあった」、「自分の作品を他人に評価してもらって良かった」と「他人に評価をってもらうことで得るものがあった」の組み合わせで相関が確認できた。

これまで自由テーマで工作するだけではなく、作品発表会と相互評価まで行う実践は教育効果があることを示唆した。